

## 令和5年3月定例会 一般質問 小西高吉議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。（各議員からの「質問」（問）に該当する部分を黄色マーキングしております。）

### 「中学校における部活動改革について」

○小西高吉 今回は、大項目として、中学校における部活動改革についてということで、この1点についてお伺いしていききたいと思います。

令和5年度より、休日の部活動を段階的に地域のクラブ活動に移行していく。この取組に関して、過去にはなかった大きな改変であり、地域や子供たち、保護者からも不安の声が上がっているのが実情です。私が初めて部活動の地域移行の質問をしたのが、令和2年12月議会で一般質問をし、それから一般質問を通じてこの問題に取り組んできております。他府県などからもいろいろと情報を入手させていただいております。部活動改革については、本当に国のほうも何度も方針が変更するなど、教育委員会も含め、本当に大変だったと思っております。当時より、子供たちが犠牲にならないように、またスムーズにいくように要望を何度も子供たちのためにしてまいりました。

香芝市としては、どのような取組を考えているのかをお聞かせいただきたいと思います。

中項目1として、令和4年度の地域部活動推進事業の成果と課題についてということで、生徒にとっての地域部活動の成果と課題について、1点目としてお聞かせいただきたいと思います。実際に香芝東中学校の女子卓球部で行われたわけなんです、その生徒さんの声を聞くのが一番大切なことだと思います。この地域部活動推進事業の一番の中心にいるのが子供たちということでありますので、子供たちにとってどのように映ったか、生徒さんの感想はどういう感想だったのかを1点目としてお伺いいたします。

○教育部次長兼福祉部次長 感想ということでございますが、顧問、生徒ともに専門的な指導者による指導を受けることができ喜んでいてということです。生徒に関しましては、実績のある指導者のプレーを間近に見ることができまして、一層向上心を持って取り組むことができたというふうな報告を受けてございます。

○小西高吉 子供たちにとっては大変いい結果というか、経験をされたということですが、ちなみにその子供たちの感想というのはどのように聞かれたのか、実際に教育部の方が現場に足を運んで現場も見ながら感想を聞かれたのかとは思いますが、その点いかがですか。

○教育部次長兼福祉部次長 先ほど申し上げた答弁に関しましては、顧問から聞いた感想にな

ってございます。実際、実証の初期、中期、後期の段階で市教委の担当者は活動の様子を見に行かせていただきまして、部員、指導者ともに熱心に練習に取り組んでおられた、そういった様子のほうを拝見させていただいております。

○小西高吉 実際に直接聞いていただきたい。やっぱり子供たちの感想。もうちょっとこうしてほしかったとかという声も、もしかしたら上がったかも分からない。先生側から伝わってくると、先生もある程度遠慮もされるかも分からないんで、その点ぜひ子供に寄り添った形で進めていただきたいというように思います。

続いて、生徒たちにとっての地域部活動事業の課題はどのように分析されているのか。先ほどはいい報告をいただいているわけなんですけど、生徒たち、香芝市の部活動に所属している生徒に今後の部活動について実際に話をされたのでしょうか。その点をお聞かせいただけますか。

○教育部次長兼福祉部次長 課題につきましては、学校部活動以外の団体による大会参加に関するルールが整備されまして、平日と休日の指導者間の連携が十分に図ることができたら、練習や試合に関して特に問題はないというふうに考えてございます。今回は実証研究ということでございましたので、学校部活動のみと変わらない費用負担というふうなことではございますが、受益者負担となるときは負担や補助の在り方、こちらのほうを保護者の皆さんに理解していただくことが大きい課題であるというふうに考えております。

生徒たちへの話ということでございますが、先ほど申し上げたように、現状まだできていない状況でございます。正確な情報を子供たち、保護者に伝えることができるようになれば、丁寧に説明をしてまいりたいと思います。

○小西高吉 ちなみに、1点、今のあれなんですけど、推進事業を実際にやられるに当たって、これも子供たちには先生のほうから説明があったんでしょうか。その点ってどういう形でこういう子供たちに、急に先生じゃない方が指導員として来られるという形になるんですけど、その点の流れってどういうような流れになったんでしょうか。その点、分かるのであれば聞かせていただけますか。

○教育部次長兼福祉部次長 実際に子供たちに対しましては、学校のほうから顧問を通じながら話のほうが行っておる状況でございますが、保護者会のほうには市教委の担当等が行かせていただきまして説明のほうをさせていただいております。

○小西高吉 分かりました。多少不安もあつたらうと思いますが、結果としてはいい結果を生んでいるということなんで、よかったのかなと思います。

次に、この事業の本来の目的としては、1つ目は中学校教員の働き方改革につながる事業とすると。2つ目は、学校部活動から地域スポーツへとスムーズな移行を図ることだっただと思います。そもそも、この休日部活動を地域に移行する取組は教職員の働き方改革から端を

発していると考えますが、教員側の目線に立てば、ここが一番のポイントです、教員の働き方改革につながる成果があったのかどうか、どのように認識されておられますか。

○教育部次長兼福祉部次長 実証研究が行われました 10 月から 2 月まで、地域指導者により指導が全部で 24 回あったんですが、うち中学校の顧問が休日の練習に全く参加をしなかったというのは残念ながら 2 回になっております。実証実験に参加したほかの地域でもこれに近い状況があったというふうには聞いております。今年度は、大会参加等に関する地域指導者の登録が必要なんですが、これが入札後では間に合わなかったために、結局その大会引率者となります顧問が地域指導者と一緒に指導をするというふうなことになるようになっておいたという結果になっております。

その結果として、教員の業務軽減というふうな部分については、あまりつなげることができなかったのが現状であると思っております。しかし、これにつきましては、今後指導者を含む大会参加のルール改定、このものが進むことによりまして改善を見込んでおるところでございます。

○小西高吉 24 回、この指導員の方による指導があったけども、実際先生が休まれたのは 2 回だけと、相当熱心な先生であり、子供たちのことが気になるということで。今回は特にテスト的というか、研究的な事業ですんで、その先生もさすがに全て任せますっていうのはなかなか難しかったのかなとは思いますが。ただ、実際の目的としては休日に休んでいただくための改革ですので、そこに結びつくようにしていただきたいと思うんですが、ちなみに先生たちにとっての課題、どのように分析されておられるでしょうか。

○教育部次長兼福祉部次長 学校の顧問と地域指導者が生徒の状況や大会の状況、これを共有して連携をいかにスムーズにしていくか、密に行っていくかということが一番の課題であったと考えてございます。今回の実証研究の中では、練習の前後に練習内容等の相談等を行っていましたが、本格的に地域移行していくためには平日と休日、こちらの指導者間のスムーズな連携、これが必須であるというふうな課題と捉えてございます。

○小西高吉 そうですね。スポーツ庁からガイドライン、この令和 4 年、去年の 12 月に改めて出しておられるんですけど、それまでもそうなんですけど、大会等の在り方の見直しと、実際見直しもされるんだろうと思うんですけど、地域クラブ活動の会員等も参加できるような見直しを、これはもうされていくという国の方針として出しておられます。最終的にいうんですか、平日の環境整備はできるところから取り組むと、平日もできればやってもらうように、国としての方針じゃないですけど、希望ですよ、これはあくまでも。という形には書いてあるんですけど。ちなみに、今回の事業所さんの地域部活の成果と課題をどのように教育部は分析されておられるでしょうか。

○教育部次長兼福祉部次長 これは事業者さんの問題ではないんですが、今回入札の際に不落が続きました、事業の開始が遅れたことがございました。結果として、今後の入札の方法でありましたり、仕様書の示し方、こういったところの検証ができたかなと思っております。大きな成果といたしましては、一般競争入札を行う形で複数の事業者から入札があったこと、さらには決定後に事業者さんのほうから実績のある指導者を派遣していただいたことによりまして、子供たちの活動がいい取組につながった、これが一番大きいのかなというふうに思っております。

課題といたしましては、今後段階的に移行を進める際に、文化部も含めまして多くの部活動に対しまして指導者を派遣してもらうために、事業者が単一で可能なのか、もしくは複数の事業者が必要になるのか、こういった受皿となる団体の検証、これが改めて必要であるというふうに分かってまいりました。

以上です。

○小西高吉 そうですね、最初に入札が不落になって、その分遅れたというところからいくと回数も減ったということですよ。これは 100%国費で賄える事業だったということもあって、せっかく香芝市が手を挙げた限りはスムーズに進んでほしかったなというのは当然思っております。

地域部活動推進事業の課題の一つに、担い手となる指導者の確保が挙げられております。これは、香芝市だけでなく全国の自治体が頭を悩まされております。まず、香芝市の方向性として、指導者の確保はまずは香芝市内の団体や事業者さんを考えておられるのか、それとも市外の団体や事業者さんでもよいと考えておられるのか、その点をお聞かせいただけます。

○教育部次長兼福祉部次長 県のほうは、県域での人材バンク、こちらの設置とその活用についても方法の一つとして示すというふうな情報がございます。そういったところから、今後市外の団体についても受皿の一つになるというふうに考えてございます。国のガイドラインで、指導をしたい教員は兼職兼業によって指導ができる方向が示されておりますので、教員の兼職兼業の受皿となります団体が一般の事業者さんで可能なのか、競技団体となっていくのか、この辺の制度の在り方が兼職兼業の承認を行う任命権者であります県のほうから示されるということですので、その状況も踏まえて検証していく必要があると考えてございます。

○小西高吉 簡単に言うと市外の団体、事業者さんでもいいという、国、県の方針っていうことを受けて、市としても市内にこだわるわけではないという認識だということではないですかね。そういう認識ですよ。

それを受けて質問させていただくんですけど、香芝市には昨年策定された第3次香芝市生涯学習推進基本計画がございまして、ホームページにも掲載されていますが、全ての市民が生涯学

習を通じて自己実現を図り、誰もが輝くことのできる環境づくりに取り組むため、第3次香芝市生涯学習推進基本計画を策定いたしましたと記載されております。この基本計画と整合性を取るのであれば、香芝市内の事業所や団体にまずはご協力していただくことが大切だと考えます。

また、基本理念の中に、学んだ成果を生かしてよりよい環境づくり、まちづくりにつながる好循環が生まれる、そんな生涯学習を進めていくために本計画を通して実現していくと書かれております。こういう生涯学習の理念と部活動の地域移行をリンクさせることが大切だと思いますがどのようにお考えでしょうか、お聞かせいただけますか。

それと、また基本目標にも書かれているんですが、住みよいまちづくりを進めるためには学びを通して地域の問題や課題を解決していける人と人との重層的なつながりが大切だと、これも書かれております。部活動の地域移行は地域の問題や課題です。香芝市の計画の中には、人と人とのつながりが大切と書かれている。市内の人と人をつなげるためにも情報を地域の団体や事業者さんにされているのか、市内の団体、事業者さんをしっかりと把握されているのか含めてお答えいただけますか。

**○教育部次長兼福祉部次長** 部活動と地域移行のリンクの件でございますが、昨年12月に出された国のガイドラインにおきましても、地域クラブ活動につきましては学校の教育課程外の活動として社会教育法上の社会教育の一環として捉えることができ、またスポーツ基本法や文化芸術基本上のスポーツ、文化、芸術として位置づけられるというふうにされておりますので、当然学校教育と社会教育、この連携というのは大切なものであると考えてございます。

それから、情報をとということですが、地域移行に関しての情報発信に関しましては地域部活動の推進会議がございまして、そこでの参加者以外の方には流せていない状況でございます。児童・生徒や保護者向けに同様に正確な情報をお伝えできるようになれば、発信のほうをしてみたいというふうに考えております。

すいません、先ほどの情報発信の件でございますが、国、県のガイドライン、これを基に香芝市としての方向性を定めていくに当たりまして、例えば地域部活動推進会議に関連団体の方からも意見を聞かせていただく等、協力のほうを仰いでいきたいというふうに考えております。

それから、事業者さんの把握ということでございますが、市内の事業者の登録に関しましては状況を確認してございます。それから、団体につきましては、スポーツ少年団をはじめとして、ある一定につきましては生涯学習課のほうで把握をしておるところでございます。

**○小西高吉** すんません、何点かまとめて聞いてしまったんでちょっと分かりにくかったですが、ちなみに現在この市内で地域移行の部活動を何種目かだけでも引き受けていただけそうな団体、事業者さんはおられるのでしょうか。実際に引き受けてもらえるかなと思えるところは

あるのでしょうか。その点をお聞かせいただけますか。

**○教育部次長兼福祉部次長** 今年度開催されました地域部活動の推進会議に参加しておられました体育協会の代表でありましたり、スポーツ、社会教育の主管課であります生涯学習課、そちらのほうからも幾つかの種目については引き受けていただけそうな情報のほうもいただいています。

**○小西高吉** おられるということなのですが、その場合、早急にその団体に段階的に移行していくことがいいと思うんですが、その点いかがでしょうか。部活動の指導者は今後どの自治体も本当に困ってくると、一斉に動き出すと思うんですけど。もともと令和2年のときにもそのお話をさせていただいたんですが、香芝だけが動くんじゃなくて、奈良県だけでなく全国が動き出すんで、先ほども答弁ありましたけど、市外の方でもいいというのは全国的な話になってくると思うんで、そうなってくると香芝市の団体さんが違うところの指導をされることもできてくると思うんで、本当に指導者さんの取り合いということにもなりかねないと思うんですけど、香芝市の団体さんを確保するということがとっても重要になってくると思うんですけど、その点いかがでしょうか。

**○教育部次長兼福祉部次長** これまで、学校の教育活動の一環として部活動がありました。指導者につきましても原則無償という形で提供のほうをされている状況でございます。ところが、地域クラブ活動に関しましては学校外の活動となりますので、運営費等については受益者負担が原則になるというふうな情報もございます。ただ、費用の負担の在り方、もしくは費用に関する支援の在り方、こういったところにつきましては国や県からの補助の有無も含めまして検討していく必要がございます。早急な移行を行うことで市民の方に独自に負担をしていただくようなことがある可能性がございますので、国や県の動向をしっかりと踏まえて議論していく必要があると考えております。

しかしながら、おっしゃるように指導者の確保というのは重要な課題でございます。県やほかの市町村と連携を図りながら確保の方法についても検討してまいりたいと思います。

**○小西高吉** しっかり確保に励んでいただきたいと。奈良県のほうもいろいろ動いていただきたいと思うんですが、あまり県の動きが見えないというのも実際あるんですけど。ちなみに、部活動指導員の任用拡充を図ってまいりたいと令和2年度のときも、私の質問に対して答弁していただいているんですけど、その後成果はあったのでしょうか。そして、今後どのように人材確保しようと考えておられるのか、その計画や採用に対する条件はあるのかということをお答えいただけますか。

**○教育部次長兼福祉部次長** 部活動指導員に登録いただいている方は数名おられるんですが、登録者の生活や仕事の状況に変化がございましたり、学校が必要とする部活動とのマッチングで

きる種目がなかったりということで、現状1名が活動いただいているという状況でございます。

現在、ホームページでの登録者の募集を拡大するとともに、指導員を必要といたします部活動、また候補となる指導者に関しまして、中学校と随時情報共有を図っておるところでございます。

採用の条件というのがあったかと思うんですが、採用の要件ということで香芝市立中学校部活動指導員設置要綱というものがございますが、その中で採用の条件といえますのは幾つかありますが、教員免許状を有する者、それから学校教育または社会教育において児童・生徒を対象とした指導経験を有する者、中央競技団体が認定する指導資格を有する者、当該部活動種目の技術指導に堪能である者、またあとその他適格があると校長が認めた者となっております。

以上でございます。

**○小西高吉** 条件というか、要件があるということで、ほんで実際今現在1名と、数名登録されてるけど1名ということですね。実際に活動いただいているのはということ。分かりました。

前回、12月議会で木下議員が代表質問の中で質問されたわけなんですけど、この部活動について。その中で、それに対しての答弁にも不安と疑念を持った答弁があったので、改めて質問させていただきますが、答弁では、国からは状況的に直ちに自治体や地域スポーツクラブが運営する形での地域移行が困難な場合については、当面部活動指導員や外部指導者を適切に配置して生徒の活動環境を確保することが考えられるというふうなことも案で示されておりますので、そのために教員の負担軽減と地域移行に向けての意識の醸成を狙いたいといたしまして、先ほどご意見いただきました部活動指導員、こちらのほうの増員、これで進めていきたいというふうに考えておりますと答弁があったわけなんですけど、令和2年、先ほども聞きましたが、部活動指導員は1名、全然増えてない状況なんですけど、この部活動指導員にこだわるのは本当に進める気があるのかなっていうのを疑うというか、疑問に思うところがあるんですけど、その点教育部としては部活動指導員を10名、20名も増えると思って取り組んでおられるのか、その取組と部活動指導員にこだわる根拠を詳細にお教えいただけたらと思うんですが、いかがでしょうか。

**○教育部次長兼福祉部次長** 部活動指導員にこだわっているわけではございません。これまでなかなか増やすことができなかった部活動指導員につきまして、急激に増やすことというのは現実的には簡単なものではないというふうには認識してございます。

ご指摘の12月議会の答弁のとおり、国からは状況的に直ちに移行が困難な場合については当面部活動指導員や外部指導者を適切に配置して生徒の活動環境を確保することが考えられると、先ほどおっしゃったようにあること、また中学校のほうではまだまだご自身で指導された

い教員が多くおられます。そんなことから、現状一斉に地域移行が難しい中、その一方で指導が負担になっております教員、この負担軽減が喫緊の課題となりますので、その対処も含めまして部活動指導員の増員を上げさせていただいたところでございます。

今後につきましては、部活動指導員の配置のほか、特定の部活動を拠点校方式で指導する、そういったところも含めて中学校と協議を検討しておるところでございます。

○小西高吉 実際、結果として1名の方しかおられないのが現状であると。ただ、その確保も同時に動いておられるっていうのも実際分かっているんですけど、現実にはなかなか程遠いのかなというように感じております。

次に、教育部にとっての地域部活動の成果と課題についてというのをお聞かせいただきたいんですが、教育部にとっての今回の地域部活動の成果なんですが、私は令和2年からお願いしております推進と調整役に今日に至るまで努力されたのかどうか、どのような努力をされたのかといったことを、できたら学校地域と調整を行った時系列に詳細にお教えいただけたらというように思うんですが、いかがですか。

○教育部次長兼福祉部次長 まず、令和2年7月に部活動指導員の配置を開始させていただきました。それから、同年9月に国から学校の働き方を踏まえた部活動、これが示されたことから、香芝市におきましても持続可能な部活動と教師の負担軽減の実現に向けて、ここから検討を開始しております。令和3年度になりますが、8月に部活動の地域移行に関しての周知という意味も込めまして、教員に対する部活動の意識調査、さらには部活動の顧問への聞き取りを実施してございます。それから、令和3年度12月には先行的に実証を進めております自治体のほうに聞き取りのほうを行っております。令和4年度になりまして、今回出てきておりますスポーツ庁の事業といたしまして、10月から2月に休日部活動の地域移行に関する研究を行いまして、その中で地域部活動推進会議を3回開催し、関係各所からご意見をいただいたところでございます。また、令和4年度の夏から秋にかけて、部活動顧問への聞き取りについても再度行っておるところでございます。また、10月には近隣自治体の教育委員会の関係職員との情報交換会を実施いたしまして、今後の方針の進め方についての情報交換、検討のほうを進めた経緯がございます。また、各中学校とは、校長会の機会を利用して随時意見交換を行っているところでございます。

すみません、詳細ということで長くなりました。

○小西高吉 ありがとうございます。詳細を時系列を追ってご説明いただいたわけなんですが、後でまた推進会議とかもお聞かせいただきたいと思うんですが、令和2年の私の質問に対しての答弁で、地域部活動の運営主体をどう構築して、どのように人材を確保していくかというような全体のフレームを整備しつつ、例えば学校の枠を超えた合同部活動とか部活動の選択とい

ったような現在の学校部活動の合理的、効率的な抜本的見直しを進めてまいりたいというように考えているところでございますと答弁いただいているわけなんですけど、これに対しても約2年強ですか、たつんですけど、このときは考えていくということだったんですが、その考えはもう結果が出たんでしょうか。その点、詳細にお教えいただけますか。

**○教育部次長兼福祉部次長** 早くに問題を提起されました令和2年から時間がたっているというご指摘でございますが、令和3年度、4年度、私自身がこれまで一般質問等で答弁のほうをしましてまいりましたが、大変重大な変化のため、この間国から出てまいります提言やガイドライン、こちらを注視をしていきたいということで繰り返し答弁のほうもさせていただいたところでございます。実際に国の議論につきましても相当時間がかかってきたのもご存じかなと思うんですが、また国は当初令和5年、6年、7年を改革集中期間として令和7年度末をめどに地域移行を完成させるというふうにしておりましたが、この12月にスポーツ庁が改革推進期間と表現を変更いたしまして、令和7年度までの目標にこだわることなく、できるだけ早期に移行を完了してほしいというふうになってきたところでございます。

また、国の予算に関しましても、部活動の地域移行に向けた支援ということで、夏頃には概算要求で88億1,000万円が上がっておったところが、予算のほうで地域移行に向けた実証事業ということで11億円ぐらいに大幅に縮小されているというふうなことで、状況はまだまだ流動的と言わざるを得ないと考えてございます。

考えはもう出たかというふうなご指摘ではございますが、これからもなお情報収集を行いながら議論を重ねていかざるを得ない状況であるというふうに認識してございます。

**○小西高吉** 確かに国の方針が変化してるというか、ころころ変わってるというべきなのか、先ほど言われましたけど、令和5年度から本来段階的に進めろということから移行していけという文言から、今ご紹介があったように令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間とするというように変化してるのも事実です。国の方針が変わる中、県の対応もなかなか進まない中で、香芝市もご苦労いただいているのはしっかり分かっております。

その中で、子供たちに負担というか、迷惑がかからないように進めていただきたいというのが本意でございますので、ぜひお願いしたいと思うんですが、今回の成果と課題、この推進事業、今後どのように改革されていくのか、どのように分析されたのかという点、大変大切な部分だと思いますので、詳細にお教えいただけますか。

**○教育部次長兼福祉部次長** 先ほどから挙げさせていただいております課題、これを精査、蓄積いたしまして、それに対する方向性も国や県から示されるようになっております。また、3月中に県で策定されるという予定を聞いております地域移行に関します方針や移行の手引、これが出るというように聞いておりますので、そこも踏まえた上で近隣市町村との情報共有、

これをいたしまして関係部局と連携を図りながら方針とスケジュールの策定を進めていきたいと思っております。

ただ、ご指摘のとおり、スピード感を持って進める必要があるのは当然でございます。ただ一方で、先ほど答弁いたしましたように、受益者負担等に係るような補助等も含めまして拙速に進めることによりまして市民の皆様にも不利益になることは、これは逆に避けなければならないなども考えてございます。

○小西高吉 後ほど受益者負担というか、保護者負担の件も改めて聞かせていただきますが、この地域部活動推進事業ですが、これは令和5年度の当初予算には予算がのっていない、確保されていません。乗ってないですね。ただ、国のほうもこの2月に令和5年度の募集を出してきておられるというように聞かせていただいているんですが、そこからいうとなかなか当初予算にのせるということは不可能だったということは理解させていただくんですが、ほかの自治体さんの状況を聞かせていただくと、補正を組んでくるというようなお話も聞かせていただいているんですが、この香芝市においても、せっかくこれ、奈良県の中では生駒市さん、明日香ですかね、ほんで次いでこの香芝市が手を挙げて、実際にこの事業をされてるということなんですけど、当然香芝市としても継続、ほかの自治体も継続するというお話を聞いているんですが、その点、継続のお考えをお聞かせいただけますか。

○教育部次長兼福祉部次長 今年度の課題としております学校の部活動顧問と地域指導者の効果的、効率的な連携に関する研究に関しましては、次年度も継続する方向で、来年度のスポーツ庁の事業に申請の方向で準備のほうをしておるところでございます。これが県のほうで認められた場合につきましては、補正予算のほうもお願いしたいなというふうに考えてございます。

○小西高吉 県のほうもしっかり、この状況というか、実際に行っているとこの継続はやっぱり認めていただきたいというように切にお願いするわけでありまして。しかり県会議員の先生方も動いていただけたらなというように思いますが。

次、何にも、この教育部も考えて工夫されてきて指導者の拡充ができていない。実際にできていない現状ですね。教育部だけでは本当に人材を確保するというのはもう相当難しいんじゃないかなと。前回のときも、スポーツコミッションをつくって、これにもってというお話も入れさせていただいたんですが、それでまず、取りあえず外部から部活動地域移行の調整やコーディネーター役みたいな方に入っていただくという、そういったお考えはないでしょうか。

○教育部次長兼福祉部次長 現在は入っていただく予定はございません。今後は学校支援室とスポーツ、社会教育の担当課であります生涯学習課、こちらのほうが中心となって人材集め等についての検討は進めてまいりたいと思います。

○小西高吉 ぜひ、今現在入れる予定はないということですけど、考えたほうがいいんじゃないな

いのかなと。相当教育部の負担が大きいですよ、これ。相当大きな改革になってくるんで、その中で人材を確保する、先ほどもありましたけど、先生方も、確かに昨日市外の中学校の校長先生とお話をする機会があつて聞かせていただいたら、実際やりたい、続けて部活動を指導したいという先生もやっぱり多いということもありました。ただ、異動があるんで、そこに登録するということがなかなか難しいのも現状だと。そうなってくると、定年を迎えた先生にそういう団体に所属していただくとかということも考えていかなあかんのかなと。いろんな学校でも相当苦勞もされているのが現状です。そんなところを踏まえると、いろんな方に入っていただくなり、本当にプロに入っていただくようなことも考えていくべきじゃないのかなと思います。

次に、先ほどもありましたけど、費用負担の課題についてということで、中項目2なんですけど、今回の事業では消耗品費、保険料、指導者への謝金が国費で賄えたので、今回の推進事業は、保護者の負担はなかったんですが、実際に行っていくときには、国や市からの費用がなくなった場合、どこまでが受益者負担になるのかということが保護者の方々でも相当不安に思われておられます。それは教育委員会も十分承知していただいているかなと思うんですが。その地域部活動を学校部活動に加入している生徒へ平等に機会を与えるための活動の場として考えるのであれば、行政からの助成をしてあげるとするのが絶対に必要だと私は考えるんですが、その点の香芝市の考え、香芝市独自の部活動応援助成金っていったような感じで考えてるというようなお答えをいただけたら保護者の方も安心されると思うんですが、その点いかがですか。

○教育部次長兼福祉部次長 まず、県やほかの市町村と連携を図りながら生徒や保護者、地域住民の理解を得ながら活動の維持、運営に必要な範囲で可能な限り低廉な価格となりますように、ここについては関係機関と調整が必要と考えておりますが、一方で経済的に困窮するご家庭の生徒の地域クラブ活動への参加費用の支援等、家庭の参加費用の負担軽減については別途検討していく必要があるというふうに考えてございます。

それから、香芝市独自の助成金というふうなことのご提案をいただきました。12月議会のほうでも答弁のほうをさせていただいておりますが、今回の実証研究と同様に保険代、指導者の報酬、事務局の事務費等々全て費用負担をした場合は年間で約7,500万円程度を試算しております。少々乱暴な言い方になりますが、香芝市の乳幼児から高齢者の方、皆さん全ての市民の方が年間お一人1,000円負担をされると、単純にいうとなっていくということで、そんなこととなりますので、その場合については議会のほうにもご意見のほうを頂戴すべきというふうに考えてございます。それから、当面につきましては、国や県の補助制度、これが創設をされてこないか、こちらのほうに注視していく必要がございます、その上で判断していくのが適切かなと考えてございます。

○小西高吉 ぜひ、国、県頼みじゃなくて香芝市独自の考え、思いを出して、形として表していただきたいということも切にお願いしておきます。

次に、3番として、移行時期の明確化についてということで、国が示す possible の限り早期の実現を目指すという目標に対して、香芝市はいつから完全に地域移行を行うのか、明確になっているのか、今ずっと聞いてる中ではなっていないだろうなと思うんですが、その計画はいかがですか。

○教育部次長兼福祉部次長 国が令和4年12月に作成したガイドラインにおける改革推進期間として令和7年度末までの3年間の移行期間というものが見込まれておりますので、香芝市についてもまだ現段階では明確なものはありませんが、そこを目標に、ほかの市町村との調整も含めて進めてまいりたいと思います。

○小西高吉 なかなかはっきりしたお答えをいただけないというのは、今現状ではそんな状況なんですけど、はっきり部活動の地域移行、これはもう絶対に行わなければならないという国の方針を出しておられるんで、はっきりしたことはある程度、ある程度というか、出すほうが保護者の方も子供さん方も安心されるというか、それに向かっての動きができてくるんじゃないかなと思うんですけど、例えば令和8年度から、あくまでも休日の学校部活動は地域に移行するといったような方針を出せば、団体ももちろんやけども、学校側の校長先方もロードマップを描きやすくなると思うんですけど、現在計画がないのであれば、地域や子供たち、保護者も巻き込んで計画をつくっていくという方向でいけばいいんじゃないかと思うんですが、その点、計画をつくっていないのか、明確にしていないのかというところのお考えをお聞かせいただけます、再度。

○教育部次長兼福祉部次長 先ほどの答弁と重なるのかなというふうには思いますが、国のガイドラインがパブリックコメントを経て12月25日に公開されております。こちら先ほど申し上げたように、県の方針や移行の手引が今月末に示される見込みでございますので、香芝市でも費用の負担、大会参加に関するルール、さらには兼職兼業の在り方について県の方針に基づきながら検討を進める予定でございます。また、計画の策定に関しましては、保護者の代表の方にも参加していただく地域部活動推進会議、こういったところでもご意見を伺いながら県や他市町村との調整を含めて進めてまいりたいと思います。

○小西高吉 各自治体、いろんな自治体でも、ある程度計画を立てて動いているところもあると思うんですよ。あるんですよ。そっからいうと、やっぱり子供たちに迷惑がかからない、不安にならないようにということで、先ほど来からもずっと、令和2年からも質問させていただいてるんですけど、実際この令和2年からの進め方で、教育部として反省する点とかがあるんじゃないかと思うんですが、その点はいかがですか。

○教育部次長兼福祉部次長 先ほどから答弁させていただいておりますが、国や県の動き、またそれに関わる県内自治体の動き、これについて注視していく必要がございます、拙速な動きとならないように慎重に進めてきたところでございます。また、これまでの部活動と考え方が大きく異なることから、休日の活動に教員が関わらなくなることや費用負担が発生することについては整理が困難でございました。ただし、おっしゃるように、動きが遅れると指導者の確保の部分で困難が生じるおそれがあるため、学校部活動及び新しい地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン、こういったものや県の方針、これを基にしながら今後調整のほうを急いでいきたいと考えてございます。

○小西高吉 反省点を踏まえながら進めていただきたいというふうに思うんですけど、確かに国、県の動きがもう全く読めないというか、変更、変更で来てるんで、ただ国、県のせいにはっきりしてるわけにはいかないんで。

次に、4番として、教育委員会の枠組みを超えた行政の連携についてということでお伺いしたいんですが、今まで多々伺ってきたわけなんですけど、それを踏まえて今後どうしていくかということを提案を含めてお聞かせいただきたいと思うんですが、まずは指導者の確保の課題については、とにかく中学校部活動と地域スポーツとが密に協力できる体制をいかにして構築するかが今後大切なことだと思います。現在行われている地域部活動推進会議では、少し弱いように感じるんですが、なぜかという構成メンバーが行政側や学校側の方が多いように感じる。そして、まずは子供たち、保護者、地域の団体などの代表の方に入ってきて、拡大して、部活動推進会議をする必要が私はあると思うんですが。そして、令和5年度から実施される段階的な部活動の地域移行、これは5年度からが根本的なそういう進み方だと思うんですが、さらに検討を進めるために、前を向いて進めるためにも推進会議を継続しなければならないと考えるんですが、今言ったようなことで教育部のお考えをお聞かせいただけますか。

○教育部次長兼福祉部次長 地域部活動推進会議のほうは継続の方向で考えてございます。香芝市の子供たちにとって有益な活動となりますように、学校関係者、保護者、スポーツや文化関係の関係団体の方からご意見のほうを引き続き頂戴してまいりたいと考えてございます。

○小西高吉 ぜひ本当に前向きに考えていただけたらと思うんですけど。

次に、行政の組織として、今教育委員会が主体となって進めていただいているんですが、冒頭にも言いましたけど、なかなか教育委員会だけだと難しいんじゃないのかなと。そこで、文化、スポーツや地域や企画を所管する課など市長部局と連携が必要だと。具体的には、市役所内に横断組織を設置し、それぐらいの本気度を見せていただかないと、これはなかなか実現が難しいんじゃないのかな。もう後戻りできないと思いますよ。後に戻ることってというか、今までどおりに戻るとはもう国の方針としてははないと思うんで。そっからいくと、香芝市民の

2,047名ものお子様が部活動をされてるという答弁を前回いただいているんですけど、家族を入れると約1割の方の大きな問題、課題になっております。その点、今言いましたように、横断の組織、教育委員会だけじゃなく、市長部局も入れた中でそういう組織をつくるというようなことのお考え、教育長から聞かせてもろていいですか、教育部として。市長、教育長。はい、教育長、お願いします。

○教育長 地域クラブ活動は、学習指導要領で示された学校教育の一環としての部活動とは異なるものと理解しております。地域部活動への移行に関しては、今言われましたように教育委員会のみの判断でなく、関係部局との連携が必要であると考えております。

○市長 先ほど、高木次長並びに教育長からもお話があったように、国、県の動き、またそれに関わる各自治体の動きということをしかりと注視していかないと、この令和8年度からということに対してはなかなか難しいのかなということは分かります。今教育長からあったように、連携していくということは非常に大事だと思っております。

以上です。

○小西高吉 ぜひ本当にお願ひしたいと思ひます。教育委員会だけではもう本当に大変だと思ひますよ。ぜひ市長部局、市長としてもしかりお願ひしたいと思ひます。

次に、5番目として、スポーツ産業の創出と持続可能な部活動との連携についてということで、産業振興の視点で質問させていただきたいんですが、日本においては地域スポーツクラブを無償ボランティア頼みとすることが多く、この日本ではあるんですが、ボランティア精神には持続可能かと言われれば大きな疑問が残ります。

国においては、経済産業省がサービス業としての地域スポーツクラブの可能性を考える提言書を取りまとめておられます。要は、地域スポーツクラブに新しいサービス業としての価値を生み出し、課題となっている学校部活動とリンクさせ、スポーツ産業の創出と持続可能な部活動を構築していこうとする内容です。本市にも、スポーツクラブや団体、文化芸術団体が点在しております。民間のスポーツクラブの振興と教職員の負担軽減、生徒にとっても可能性を秘めていると考えますが、市としては産業振興の視点を持っているのかどうか、お聞かせいただけますか。

○産業振興局長 現在視点を持っているのかというご質問につきましては、現在のところ持っていないというのが現状でございます。局としましては、現在取り組んでおりますKASHIBA+の認知度向上であったり、市内食材の地産地消が産業振興分野の第一義と考えておりますが、スポーツ産業につきましては、まずは市内でのスポーツクラブやスポーツ施設を運営している事業者の情報を商工会等から入手し、教育部にその情報を提供させていただきたいというふうに考えております。

以上です。

○小西高吉 ぜひ市としても産業振興の視点を持って、このことも関わっていただけたらいいと思うんです。先ほど横断した組織ってということも申してますが、そういう思いで市も一つになって進めていただきたいというように思います。

今回、部活動推進事業を行った地域として、県内、県外に向けて失敗も成功も発信していかなければならないと考えております。今は学校の一部の先生、一部の指導者が一生懸命やっている。もっと香芝市全体を巻き込んで、香芝市全体に意識を持つよう仕掛けていただきたいと思います。学校部活動の状況や地域の特性を踏まえ、どのような部活動の地域移行の体制がふさわしいのか、地域の方々と共に検討を進めていっていただきたい。そして、香芝市としては部活動の地域移行の取組を単なる部活動の代わりとしてではなく、生徒にとってよりよい新しい文化、スポーツ環境をつくることと捉えて真剣に取り組んでいただきたい。それを強くお願いして終わらせていただきます。ありがとうございました。